



本気・根気・元気

令和7年7月18日発行【第4号】

発行者：佐賀市立昭栄中学校

校長 川副 紀子

学校教育目標：夢に向かって たくましく 挑戦する生徒の育成 ―自律・協働―

生徒会スローガン：常識を覆せ！～Shoei of Students, by Students for Students～

観測史上最も早い梅雨明け

気象庁は6月27日（金）に西日本各地の梅雨明けを発表しました。平年と比べて18日から22日早くなっています。九州南部をのぞいて気象庁が統計を取り始めてから最も早い梅雨明けとなりました。このことから熱中症への警戒が長期戦となります。高温の中での活動は命の危険があるため、本校では毎日熱中症情報を掲示し、注意を呼び掛けています。少しでも体調に不安があるときは、活動は控えること、活動中に具合が悪くなった場合は決して無理をせず休むこと、下校途中に具合が悪くなることもあるため、活動中の不調は必ず顧問及び周囲に知らせることなどを徹底したいと思います。ご家庭でもあわせてご指導ください。

佐賀市中学校総合体育大会及び各種コンクール

6月20日（金）に部活動激励会を行い、生徒会を代表し3年生が1・2・3年生それぞれに向けて練習した成果を発揮してほしいという激励の言葉を述べました。また、軟式野球部主将、女子バスケットボール主将が力強く闘い抜くことを宣誓しました。それから約1週間後、佐賀市中学校総合体育大会は6月28日（土）、29日（日）、7月5日（土）、6日（日）の4日間に渡って開催されました。大変暑い中実施されましたが、どの競技も3年生を中心に最後まであきらめずに闘い抜くことができました。悔しい結果に涙する場面もあったかもしれませんが、この経験はこれからの自分にとっての財産です。胸を張って次に進んでほしいと思います。県大会に進むチームはさらに万全な準備をして臨んでほしいと思います。佐賀市の代表として相応しいプレーをして、納得のいく結果につながることを願っています。吹奏楽部や美術部のコンクールや大会、また社会体育で競技をしている皆さんにとっても目標達成につながる実り多い舞台になることを願っています。佐賀市中学校総合体育大会の結果はPTA広報「こだま」に掲載予定です。

審判がないからこそ、私たちはフェアでなくてはいけない

7月8日（火）全校集会において、プロ登山家 竹内 洋岳（たけうちひろたか）氏の話をしました。今年2月7日（金）の佐賀新聞「きょうの言葉」に掲載された「審判がないからこそ、私たちは、自分にフェアでなくてはいけない」という彼の言葉を紹介しました。日本人として初めて、8,000メートル峰14座完全登頂を達成した登山家です。彼は「山の頂上に審判が待ち構えていて、登頂を果たしたかジャッジしているわけではない、そこには誰もいません。だからこそ自分にフェアでなければ、成立しない。」と言っています。集会では、自分たちの日常生活には、ルールが無いこと、審判がないことの方が多い。そのような状況に置かれた時に、どのような行動、振る舞いができるのか、その人の真価が問われているという話をしました。

佐賀市教育委員会部活動改革伴う部活動適正化モデル「佐賀モデル」の試行について

現在、佐賀市立の中学校18校において部活動改革が進められています。その一つとして、昨年度から部活動適正化モデル「佐賀モデル」への取り組みが始まっています。本校においても、新チームから取り組んでまいりますので、お知らせいたします。

「佐賀モデル」(佐賀市部活動適正化モデル)とは、生徒が「より主体的」に、「適切な時間(週8時間程度)」で活動し、より良い、文化・スポーツ活動を実現することです。なお、長期休業中を除き、年間を通じて水曜日に部活動を設定しない、また夏場であっても活動終了時刻は18時を超えないこととします。但し、冬場は日没を優先し設定します。これからは、一人一人が学習、生活、部活動それぞれの自己目標の実現に向けて何をどのようにすべきか、時間の管理も含めて生徒が主体的に考え実施していくこととなります。ご家庭でもサポートをよろしくお願いいたします。